©錦城高校新聞委員会編集室 2020
錦城高校新聞　２０２０年８月２９日（土）

錦城高校新聞
３３１号
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2020

みんなでつくる
錦城高校新聞

みなさんのおかげで、
優秀賞を獲得できました
今後も錦城高校新聞を
よろしくお願いします

オンラインでつながる全国「WEB SOUBUN」開催中

オンライン上での開催となったこうち総文。その新聞部門で、錦城高校新聞が優秀賞を受賞した。この特別版では「WEB SOUBUN」についてお届けする。（編集部共同取材）

錦城高校新聞 優秀賞受賞

錦城高校新聞は第44回全国高等学校総合文化祭（以下こうち総文）新聞部門で、優秀賞（全国ベスト12）を受賞した。新型コロナウイルスの影響でこうち総文の高知県での開催は中止となったが、7月31日（金）から10月31日（土）まで「WEB SOUBUN」としてオンライン上で開催している。

「WEB SOUBUN」のホームページからは、新聞部門だけに限らず、
様々な部門の作品をみることができます。
ぜひご覧ください！
https://www.websoubun.com/

史上初の「WEB SOUBUN」

審査は写真、新聞、放送の3部門のみだが、管弦楽や郷土芸能、合唱部門などは、WEB総文のHP上に各出場校の動画が掲載されている。

新聞部門でも、現地開催が中止になった今年ならではの2つの取り組みが行われている。1つ目は、WEB総文のホームページに全国の参加校の新聞が公開されていること。錦城高校新聞もあるので、ぜひ見てほしい。また、2つ目はWEB総文のホームページに新聞部員が回る予定だった高知県内の交流取材コースを撮影した動画がアップロードされていること。通常通りの開催であれば、いくつかのコースに分かれて県内をめぐり、その魅力を伝える交流新聞を作成する予定だった。しかしオンライン上での開催ならではのメリットも感じられた。

編集委員の総文への思い

編集委員の濱田真帆さん（2K）はこうち総文の現地開催中止について「高知の観光や他県の生徒との交流をとても楽しみにしていたので残念でした」と話す。しかしWEB総文のHPで、交流取材コースの動画を見て、この状況下でも何かできないか必死に考えている自分と同じ高校生の存在に胸が熱くなったそうだ。

また、菅原隆寛くん（2K）は「他の部活動でも多くの大会が中止になっている中、オンラインで開催してくれるというのは、恵まれていることだと思います」と話す。また「今まで準備を中心で進めてきた高知県の生徒実行委員の方々の努力が無駄にならないように、WEB総文で多くのことを学びたいです」と語った。

＊　＊　＊

現地開催が叶わなかったことは悔しいが、オンライン開催は今までで初めてだ。このような形での開催だからこそ、体験できることもある。私たち編集部も、この状況をポジティブにとらえて、「WEB SOUBUN」を楽しみたい。また、錦城生のみなさんにも目を見て総文を知って欲しい。

他校の新聞部員とZOOMで交流

8月8日(土)にZOOM上で、滋賀県立虎姫高校新聞部主催のWEB交流会に錦城高校新聞の編集委員が参加し、全国の新聞部・委員会に所属している生徒と交流しました。参加校は錦城と虎姫高校、そして滋賀県立彦根東高校、長崎県立長崎南高校、広島県の崇徳高校の計５校でした。

交流会の中では、日頃の活動状況や新聞を作成する上での工夫点、思い出に残っている取材など、同じ活動をしている同世代のリアルな話を共有。また、それぞれの県の名所や歴史的背景を前面に出した独自の企画づくりは錦城高校新聞を作る上でのヒントになり、良い刺激をもらえました。特に戦争について取り上げる高校が多く「学校新聞を通して戦争のことを忘れないように、次世代に語り継いでいく役割があると思っています」という、長崎南高校の部員の話が心に残りました。

今回学んだことを活かして、これからも新聞づくりに励んでいきたいです。（鷺）

むらさき草

錦城高校新聞編集部に入ったときからずっと楽しみにしていた「こうち総文」。現地開催の中止が伝えられたとき、仕方がないと分かっていながらも残念な気持ちでいっぱいだった▼部活の大会がなくなってしまった生徒や、開催が危うい中、準備に準備を重ねてきた球技大会、錦城祭の実行委員。取材の中で私たちと同じように、悔しい思いをしたという声がたくさん聞こえてくる。しかしそれと同時に、新しい形で挑戦している姿も多く見られる▼休校期間中、開催予定だった大会がなくなった陸上部の部員に取材したときに「悔しいけど、これが次への大きなステップになると思う」と前向きな姿勢を見せてくれた。また、錦城祭の中止が発表された翌日の取材で「悔しいですが全てをゼロにするのではなく、なんとか形に残したいです」という言葉に胸を打たれた▼錦城高校新聞に載せているたくさんの「声」によって記者はもちろん、読者にも勇気を与えてくれたはずだ▼錦城高校新聞では、今後も新型コロナウイルスに立ち向かう錦城生の声を集め、届けていくつもりである。今の時期、ふと錦城高校新聞を手にとった時に、少しでも錦城高校新聞が皆さんを勇気づける存在になったら嬉しい。（鷺）